Def. Doc. # 2653　　Exh. #

極東國際軍事裁判所

亞米利加合衆國其他

對

荒木貞夫其他

宣誓供述書

供述者　皇野秀彦

自分義我國ニ行ハルル方式ニ從ヒ先ヅ別紙ノ通リ宣誓ヲ爲シタル上次ノ如ク供述致シマス

口供書

一、私鹽野季彦ハ一九三七年二月カラ一九三九年八月迄司法大臣デアリ尚ホ其間一九三九年一月カラ四月迄遞信大臣ヲモ兼務シテ居リマシタ

二、一九三七年七月北支那ノ盧溝橋デ日支兩軍ノ衝突事件ガ突發シマシタ、當時ハ第一近衛内閣デアリマシタガ右衝突事件ノアッタ二、三日後ノ閣議デ初メテ杉山陸軍大臣カラ右衝突處件ノ簡單ナル報告ニ接シマシタ、ソノ報告デハ支那軍隊カラ不法ニ攻擊セラレタル爲メ不得已日本軍隊ガ之ニ應戰シタモノデアルトノコトデアリマシタ、ソシテ杉山陸軍大臣ハ此ノママ放置スレバ日本ノ駐兵及多數ノ在留日本人ノ安否ガ氣ヅカワレルカラ直チニ出兵スル必要ガアルト述ベマシタ然シ近衛首相初メ他ノ閣僚ハ此ノ衝突事件ハ是非現地デ解決シテ絶對ニ擴大サセズニ處理シテ貰ヒタイト主張シ居局閣議デハ現地解決方針ニ決定セラレマシタ

三、其後二、三日ヲ經テ杉山陸軍大臣カラ更ニ此際出兵サセナケレバ我ガ駐兵及居留民ノ安全ヲ保證スルコトハ出來ナイ事態ニナルカモ知レナイカラ是非相當ナル數ノ出兵ヲスル必要ガアルトノ申入レガアリマシタ、ソコデ閣議ニ於テハ首相其他ノ閣僚ハ駐屯軍及居留民保護ノ爲メドウシテモ必要ダトアレバ出兵モヤムヲ得ナイガ出兵シテモ現地解決方針ヲ飽ク迄堅持シ

四

從テ現地デ解決ガツキ次第出兵ヲ歸還セシムルコト然シ出兵數ガ多イト日支兩軍ノ武力衝突ガ擴大スル危險ガアルカラ出兵數ハ極力少數ニ止メタルト云フ方針デヤツテ貰ヒタイト要望シ杉山陸軍大臣モソレヲ承諾シマシタノデ結局閣議ニ於テハ右ノ趣旨デ杉山陸軍大臣ノ主張ヲ諒解スルコトニナツタノデアス

第一次近衛内閣ノ時閣議ニ於ケル報告其他ノ方法ニヨリ日本軍ノ支那ニ於ケル殘虐行爲トカ南京虐殺事件等ニ付テ我々閣僚ニ何等知ラサレタコト十ク又當時新聞ニモ左樣ナコトハ記載セラレテ居ラズ當時外國カラ抗議ガアツタカドウカ知リマセヌガ少クトモ左樣ナ抗議ガアツタト云フ報告ハ閣議ニ於テナサレテオリマセヌ、只パネー號及レゲバード號事件ノコトハ閣議ニ報告セラレマシタガ其報告ハ當時ノ事情上已ムヲ得ザリシカ又ハ過失ニヨルモノデアツタトノ報告デアリマシタ

五

前ニ報告サレタコトハアリマセヌ、又事前ニ誰カラモ聞イタコトハアリマセヌ南京攻略ニツイテモ勿論ソウデアリマセヌ

支那事變ニ於テハ其ノ作戰ニ付テハ一切閣議ニ附議セラレザルハ勿論事セラレタト聞イテオリマス

コノ事件ニ付テハ所要ノ賠償金ヲ支拂ツテ米國及英國トノ間ニ圓滿ニ解決

Def. Doc. # 2653

宣　誓　書

良心ニ從ヒ眞實ヲ述ベ何事ヲモ秘匿セズ又何事ヲモ附加セザルコトヲ誓フ

（署名捺印）

昭和　年　月　日

Def. Doc. No. 2653

昭和二十二年（一九四七年）九月二十五日於東京

供述者　皇　野　季　彦

右ハ當立會人ノ面前ニテ宣誓シ且ツ署名捺印シタルコトヲ證明シマス

同　月　於　東　京

立會人　田　中　康　道